常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅡ

令和３年６月１１日(金)

◇ 常なる磐の「常なる花」

本校の玄関は、常に花が絶えない。「常なる磐(東)」の【常なる花】である。

花瓶に生けられた花は、「アート」というよりも、「侘び・寂び」の世界。
玄関に「生け花」があるだけで、そこにある空気が変わってくる。
空気が落ち着き、ゆるやかに空気が流れるのだ。

同居する目に見えない「静」と目に見えない「動」。
絶えない「生け花」のおかげで、本校の玄関は、常に【華】がある。

とは言っても「常なる生け花」、自分の手によるものでもなければ、本校職員によるものでもない。米河内町に在住のＭさん(元教員)の心遣いだ。
プレバトなら、名人級である。本当にありがたい。

さて、「生け花」は、花を【生ける】こと。
味わいのある表現であるが、「生ける」を用いる意味合いは深いのだ。

常用漢字の「生」のほか、常用外の「活」を用いた「活ける」もある。この「活ける」とは、「生物を生（活）かしておく」ということであり、別の表現を用いれば、「命を保たせる」「生き続けさせる」となる。まさに「生け花」である。
面白いところでは、「生き返らせる」との意味もあることがわかった。

右の玄関の写真。指で「生け花」を隠した時と手を外した時では、景色がまったく異なる。Ｍさんの「生け花」によって、玄関という「空間を生き返らせて」いるのである。
「常なる磐東」の【常なる華】である。